



申16号 現場第一の姿勢で職責を超えて奮闘する職場の努力に報い、生活とモチベーションの維持・向上を求める緊急再申し入れ その①

# 25,000件を超える声を基に 新賃金・夏季手当回答の撤回を求めるも 「踏み込んだ最大限の回答」 怒



組合の主な主張

- 中央本部に届いた声は、昨年にも増して深刻である。会社に届いていない本音の声でもある。
- わかりにくいと言う声が多い。過去最高の水準だが納得いかないとの声が多いのが現実である。
- 大手企業、大手私鉄が回答しているが、危惧した通り、世の中や交通運輸産業の賃上げをけん引しているとは言い難い。
- 「満額ではない」「ベアの格差が1.5倍」「夏季手当はわずか0.1カ月のプラス」「早期回答」の問題意識は変わらない。
- 社長が今後の組織再編や人事賃金制度に言及している中、チームワークが重要な鉄道会社の中で昨年以上に職責や成果や評価を重視するかのような回答に強い問題意識を持っている。
- 「最大限の回答」「かなり踏み込んだ回答」「最終回答」「再考の考えはない」と回答があったので、今後については組織内で議論し、判断していく。

- 会社としては、肯定的な声も相当数あると認識しているが、議論の中でいただいた声も受け止める。
- 様々な回答の選択肢がある中で、社員の皆さんにはどのように還元するのが一番いいのかという観点から、その時の状況に応じて適切な選択をしていく。今回に関してはそれがこの内容である。
- どのような回答をしたとしても、その趣旨を伝えること理解いただくことが大切である。
- 早期の回答についての意見やゾーンで回答の要求、それを承知の上で回答している。
- 会社として闇雲に格差を増やす、競争を煽っているということではなく、それぞれの役割や職責も、とても重要なものである。そのようなことも踏まえて今回の回答の趣旨と考え方をお伝えしている。
- 組織で判断するとあったが、新賃金と夏季手当の水準について、踏み込んだ最大限の回答である。こちらを最終回答として受け止めていただき、検討をお願いしたい。



会社の主な回答

▼主な組合の主張	夏季手当議論	主な会社の回答▼
■営業利益がコロナ前の76%までしか回復していないと回答していたが、そのことを一番の考慮要素としているとしか思えない。	■本業の力を示す営業利益をベースに様々な要素勘案して決定している。2.8ヵ月ということで平均支給額も示しているが、かなり踏み込んで回答している。	
■私たちの努力はたったの0.1ヵ月なのか。昨年からの働き度で+0.1はありえない。	■0.1ヵ月しかと言うが、かなり大きな数字である。平均支給額では昨年と比べても約1割増加している	
■夏季手当の持ち出し額は約460億円でJR発足38年で32番目となる。これが最大限ということなのか。	■費用全体を踏まえた中で、どのぐらい支給できるのかも検討した中で最大限の回答をしている。	
■半年の成果が反映されないのであれば今後も会社のために働こうという気には到底ならない。比較的短期間でコロナ前の水準まで業績を戻してきたことに対する評価がこんなものか…など厳しい意見がある	■会社として様々な声を受け止めている。一方で、 <b>ここまで出ると思わなかった等の声も多い</b> 。社員それぞれ意見はある。その意見を受け止め、引き続き何ができるか取り組む。	
■夏季手当の回答で本社が把握している声として肯定的な声の方が多いのか。	■思ったより多かったとの意見は <b>かなり多く、半分以上である</b> 。	